

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

人とのつながり ～外国ルーツを持つ私～



陳誠さん(中華人民共和国 上海出身)
仙台市在住 旅行会社勤務

——来日したのはいつですか。また日本語の勉強はどのようにしましたか。

2011年10月15日、仙台空港は東日本大震災の影響でまだ閉鎖中だったので茨城空港に降り立ちました。中国の中学校を卒業したばかりで15歳でした。仙台に住んでいた母と一緒に暮らすことになり、ひらがなの「あいうえお」も知らない状態でした。宮城県国際化協会(MIA)の日本語講座へ週4日通って日本語を基礎から学びました。わからない言葉ばかりで、その都度辞書で調べてふりがなを振っていましたが、覚えられる数が少ないので自分用の単語帳を作りました。単語帳を何度も復習してだんだんと語彙を増やしました。また、物事を全て日本語で考えるように意識しました。約半年後には自然と日本語が出てくるようになりました。

——日本に来てから半年にも満たない期間で公立高校を受験されたそうですね。

MIAも関わっている「日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス」を通して、外国人の子ども・サポートの会(以下、サポートの会)というボランティア団体を紹介してもらい、日本語学習と同時進行で公立高校入学試験の勉強を始めました。とはいえ、自分の知らない言語での受験勉強は想像よりも大変でした。なおかつ、今まで一緒に生活してこなかった母になかなか心を開くことができませんでした。新しい環境での慣れない勉強や母との生活のストレスから勉強を投げ出したこともありましたが、1週間くらいではありましたが、部屋に閉じこもったこともあります。母が粘り強く話しかけてくれたおかげで、わだかまりが徐々になくなり無事勉強を再開しました。

母やサポートの会の方々が入試に必要な書類を準備してくれ、私は受験勉強に励みました。サポートの会の代表である田所さんが尽力してくださり、通常学習サポートは週に2～3回(1回2時間)のところ、週5～7回も田所さんや他のサポーターさんに教えてもらいました。時にはサポーターさんがご自身の予定を変更し、3時間、4時間と丁寧に教えてくれたこともありました。私を支えてくれるサポーターさんたちへの恩返しは、やはり合格することが一番だと思いました。その思いが私の原動力となり、合格へ繋げることができたと思っています。

——高校生活はいかがでしたか。

同世代のそれも大勢と過ごす日々が始まったときは緊張しました。入学直後、「学校に外国人がいる」と教室まで見に来る生徒がいました



研修で訪れたオーストラリアにて

が、「なんだ、普通じゃん」と言われ、がっかりしました。声をかけてきて、私を助けてくれる友人が現れることを密かに期待していたからです。勉強に関しては、中国では優等生だったのに(自分で言うのもなんですが)、日本では言葉の壁から自信を失い劣等感でいっぱいになりました。また中国と日本の授業の違いにも戸惑いました。中国では塾で履修内容をスピーディに進め、学校では試験のコツなどを学んでいたからです。得意だった英語も和訳で苦労しました。さらに内気な性格もあって友達も作れず、高校生活の始まりは明るいものではありませんでした。

高1の夏休みが近づいた頃、仙台駅近くで日本語講座の元クラスメイトに偶然再会して久しぶりに一緒に食事をした時、「自分は良い奴なんだ」とわかってもらうことが大事だと気付きました。手始めにそれまで愛用していた大きな眼鏡からコンタクトレンズに変え、髪を伸ばして外見を変えました。

夏休みが明け、私はクラスメイトに積極的に話しかけ始めました。最初は無視されたりもしましたが、めげずに続けているうちに周囲も変わってきました。友人が増えてくると勉強にも前向きになり、先生も授業中に「ここはわかるかな?」と私のためにわかりやすく説明してくれるようになりました。また勉強のために一度は諦めた部活動も、友人に誘われて2年生の途中からバスケットボール部に入りました。ここで仲間と共に頑張った経験は、自分にとって無くてはならないものだったと思っています。

——高校卒業後のことや将来について教えてください。

高校時代にすっかり好きになった宮城や東北で将来活躍するために、進学した仙台市内の大学では人脈を広げて将来につながる基盤作りをしようと決め、色々な経験をしました。また、高校時代もお世話になったサポートの会で今度は私が大学生サポーターとなり、後輩たちに勉強を教え、生徒とサポーターたちが一堂に会する交流会を手伝いました。実は、中学生のころから人と人を結びつける仕事に就きたいと漠然と考えていました。旅を通して人と人をつなげることができる旅行会社へ就職したことは、願ったり叶ったりでした。現在は国際及び国内会議の企画・運営や訪日旅行の手配などをする部署で働いています。まだ先ではありますが、将来は宮城県で起業して100年続くような会社を作りたいと考えています。

「みやぎ外国人相談センター」から

結婚・離婚をめぐる問題、雇用主とのトラブルなど、みやぎ外国人相談センターには、法的な知識が求められる相談ごとと寄せられますが、そうした時は、仙台弁護士会さんにサポートをいただいています。

みやぎ外国人相談センターでは、仙台弁護士会国際委員会所属の弁護士の方々数名にアドバイザーとしてご協力いただいております。相談対応するにあたって専門的な知識が必要になった場合にアドバイスを求めたり、相談者が電話や対面で直接相談できるようアレンジをしたりしています。

また、これまでに、外国人の生活に関わる法的な問題について理解を深め、より良い相談対応を行うため、相談員やMIA職員との合同での勉強会を開催したこともあります。

外国人に関する問題に関心が高く、いつでも気軽に相談に応じてくれる弁護士の方々は、みやぎ外国人相談センターにとって、とても頼りになる存在です。

トラブルが起こったとき、早い段階で弁護士に相談した方が、より適切に対処できることが多いです。
また、将来のトラブルに備えたいというご相談や「これって弁護士に相談するような話なのかな?」と思うことでも結構です。どうぞお気軽にご相談ください。



仙台弁護士会国際委員会
亀田紘樹さん

みやぎ外国人相談センター ☎022-275-9990

月曜日～金曜日／9:00～17:00

対応言語：中国語、韓国語、英語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、タイ語、ヒンディー語、日本語

MIA日本語講座が開講しました



9月1日からMIA日本語講座が始まりました。新型コロナウイルス感染症の拡大により4月に開講予定だった講座は中止となっていましたので、受講生をお迎えするのは約半年ぶりとなります。受講生の定員を通常の半分以下とし、教室では受講生間の距離を充分にとり、また毎日入室前に受講生の体温を測定するなど各種感染対策を行っています。マスクをしている受講生の声が聞き取りにくかったり、アクティビティに制限がかかったりする中、講師のみなさんは新たな日本語講座に向けて模索の日々が続いています。



「日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイドブック宮城」

日本語を母語としない子どもや親を対象に宮城県で高校進学するための情報についてまとめたガイドブックです。高校の種類、授業料などお金に関すること、高校入試などについて書かれていて、日本語版のほかに英語、中国語、韓国語、スペイン語、タガログ語およびベトナム語の翻訳版があります。いずれもHPでダウンロードすることもできますし、当協会までお問い合わせいただければ郵送することもできます(送料をご負担いただけます)。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、例年開催していた進路ガイダンスが開催できなくなりましたので、その代わりにこのガイドブックの要点を説明する動画(日本語版と中国語版)もHPに掲載しています。

日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイドブック宮城

<https://shinro-miyagi.jimdofree.com/>

なお、高校進学などについてより詳しく話を聞きたい方は、みやぎ外国人相談センターまでご連絡ください。通訳付きでご相談いただけます。

電話：022-275-9990(月曜日～金曜日 9:00～17:00)





大学生に県内の国際化の現状について説明しました

8月28日に宮城学院女子大学教育学部の学生4人が国際化の現状の調査をするためMIAにいらしたので、宮城県における外国人の在留状況や、MIAで行っている多文化共生支援事業について説明を行いました。

また、みやぎ外国人相談センターの相談員(ベトナム人)から、仕事内容の説明に加えて、日本で暮らす中で感じたベトナムと日本の文化の違い等、自身の体験談もお伝えしました。学生の皆さんは、「外国人の立場からみた日本」という普段はなかなか気づきにくい視点からの話に、時折感心した表情を見せながら聞き入っていました。

質疑応答の時間には、学生から積極的に質問が出されました。「今後、外国人と仕事などで接する際に、どのようなことを心掛ければ良いですか」との問いには、相談員から「気を遣って遠回しな言い方をするより、ハッキリとした言葉で伝えた方がわかりやすい」とアドバイスする場面もありました。今回の実習で、宮城県内の多文化共生へ向けた取り組みについて、より強く関心を持てただけたようです。

多文化なトピック

ご活用ください!

気象庁による多言語での防災気象情報

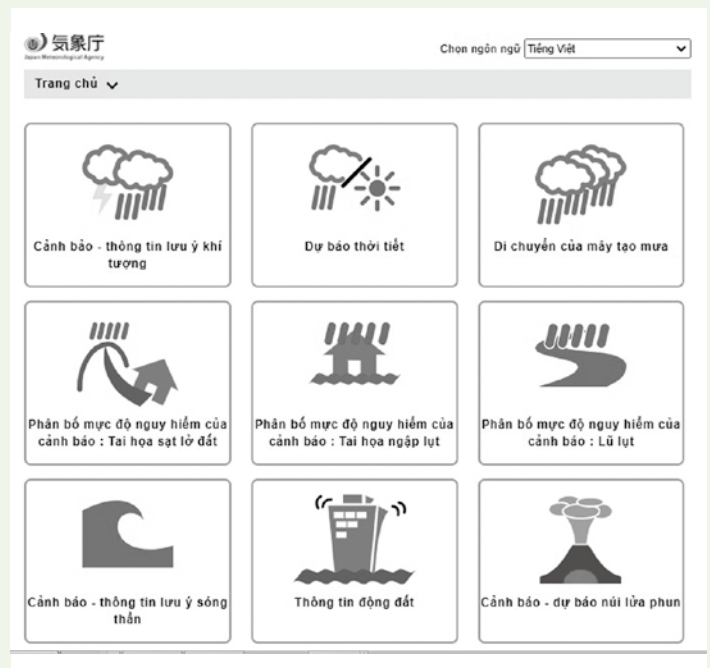
秋は台風シーズンです。県内に甚大な被害をもたらした昨年10月の台風19号は、まだ記憶に新しいところです。

災害時に適切な行動をとるためには、正しい情報が必要ですが、気象庁では、国内に暮らす外国人や訪日外国人向けに、防災気象情報をウェブサイトで14言語(日本語、英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、ベトナム語、タガログ語、タイ語、ネパール語、クメール語、ビルマ語、モンゴル語)で提供しています。

昨年の台風のあとにMIAが外国人を対象に聴き取りを行ったところ、日本に暮らす外国人は、母語でやりとりができる同国人コミュニティで情報収集することが多く、こうした日本の公的機関が出す多言語情報はあまり知られていないようです。

大雨や洪水に関する警報・注意報、地震情報、津波警報・注意報などのほか、危険度に合わせた取るべき行動なども解説されていて、大変利用価値のあるサイトですので、お知り合いの外国の方にぜひお知らせください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/multi.html>



ベトナム語表記の気象庁ウェブサイト

外国人技能実習生と市長との懇談会@塩竈市

去る8月1日に、塩竈市内の水産加工企業で働く外国人技能実習生と塩竈市長との懇談会が開催されました。

塩竈市では、新型コロナウイルスの感染拡大で不安を抱えている技能実習生を支援するため、お米や特産の海苔などを詰め合わせた「応援パック」を市内企業で働く技能実習生に贈りました。塩釜国際交流協会の日本語教室で学ぶ技能実習生が、教室活動の一環として市長宛てにお礼状を書いたことがきっかけとなり、直接市長にその気持ちを伝えるため、懇談の場が設けられたのです。

当日は、インドネシア、ベトナム出身の3人の技能実習生が出席し、「私たちを応援してくださって、ありがとうございました」「日本の米はやわらかいので、たくさん食べました」と、佐藤市長に感謝の言葉を述べました。市長からは「皆さんのことを塩竈に暮らす仲間だと思っています。これからも頑張ってください」と励ましの言葉が伝えられました。

塩竈市では、市が成人式で多言語の招待状を作成して振袖の着付けを行ったり、国際交流協会が中心となってさまざまな交流の場が設けられたりと、地域全体で技能実習生を支えようという取り組みが進められています。「応援パック」、お礼の手紙、そして今回の懇談会によって、技能実習生と地域の人たちとの距離がいつそう近づいたのではないのでしょうか。



写真提供:塩竈市水産振興課



当会は、前身の「ガ島・ミャンマー会」(ガ島=ガダルカナル島)の活動を受け、ミャンマーでの戦争体験者、その遺族、仕事を通じて繋がりのある個人や企業、また学校寄贈に関心のある方々が集まった団体です。昨今のコロナ禍の中、宮城県内のミャンマー人留学生がバイトが打ち切られた、学費の支払いが滞っている、一日一食だけ等の状況を知り、特に支援を必要とする私費留学生6名へ数回にわたり食料品等を進呈してきました。また7月にはそうめんも配布しようとしたところ、留学生からそうめんを使ってミャンマー料理「モヒンガー」を作ってお礼をしたいとの申し出であり、交流会を開催しました。

今年は戦後75年。宮城県から出兵した大勢の兵士もミャンマーの激戦地で尊い命を失いました。その地でミャンマー人に食べ物を運んでもらって命をつなぎ、帰国できた稀有な兵士がいたことを知っていただきたいと思います。

宮城県で頑張っているミャンマー人への支援と共に、次世代を担うミャンマー国内の子どもたちの支援として学校寄贈運動を続けていきたいと考えています。

事務局長 加藤重雄

会員募集中

問い合わせ先：仙台市若林区卸町4-3-1ワールドトラベル内
TEL 022-232-8051

ミャンマーの代表食
「モヒンガー」調理中



7月12日 交流会にて

多文化 なトピック

宮城の在留外国人の状況

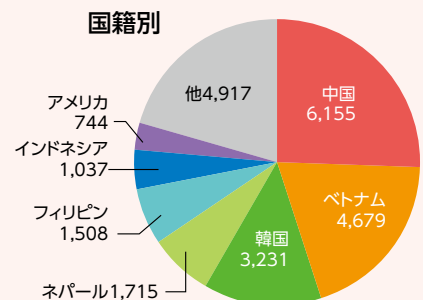
法務省の統計によると、宮城県の在留外国人は、2019年12月末現在で23,986人となり、過去最多を更新しました。2018年度末は21,614人でしたので、1年で2千人余り増加したことになります。

国籍別では、中国が不動の1位で、ベトナム、韓国、ネパール、フィリピンが続いています。ベトナムは2018年末より918人増加。そしてネパールは433人増え、フィリピンより多くなりました。

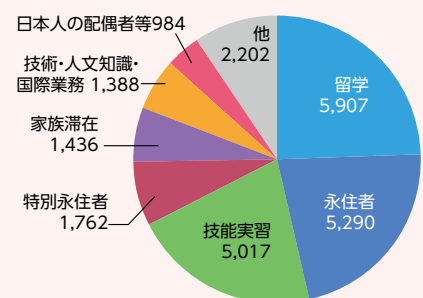
在留資格別では、留学(5,907人)が長年にわたり首位だった永住者(5,290人)を上回りました。また技能実習(5,017人)も大幅に増加しています。増加している留学生や実習生が飲食、総菜加工、水産業、宿泊、運送、クリーニング、建築、土木、介護など多くの職種に携わり、不可欠な戦力として活躍しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により出入国に制限が生じ、以前とは異なる状況になっています。東日本大震災以降、右肩上がりで増えていた在留外国人ですが、今後はどのように変化していくのか見通せない状況にあります。政府は、在留外国人を積極的に受け入れる方向性を示してきましたが、足踏みする状態となった今、地域の外国人を如何に受け入れ、共生していけばよいのか、行政、企業、地域などが連携して取り組みを一層深めていくことが必要です。

法務省外国人統計より
(2019年12月末)



在留資格別



賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



●賛助会員の資格

本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など

●賛助会員の区分と年会費

個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円

●賛助会員の特典

①協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の
定期送付(年6回)

②当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免

③個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
宮交観光サービス(株)

④企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供

●入会方法

①本協会あて御連絡ください。
②本協会の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 **MIA** vol.111

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914

仙台市青葉区堤通南宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <http://mia-miyagi.jp>

